風景構成法の付加段階で描かれるアイテムについて

○佐々木玲仁¹・大場麗¹・長岡千賀²・小森政嗣³

(¹九州大学大学院人間環境学研究院・²追手門大学経営学部・³大阪電気通信大学情報通信工学部)

キーワード：風景構成法, 付加段階, アイテム

The items drawn on the step of additional drawing in Landscape Montage Technique

Reiji SASAKI¹, Urara OBA¹, Chika NAGAOKA² and Masashi KOMORI^{3,*}

(¹Graduate School of Human-Environmental Studies, Kyushu Univ., ²Faculty of Management, Otemon Gakuin Univ.,

³Faculty of Information and Communication Engineering, Osaka Electro-Communication Univ.)

Key Words: Landscape Montage Technique, step of additional drawing, items

目 的

本研究では、心理臨床面接の中で用いられる描画法の一つである風景構成法の「付加段階」でどのようなものが描かれるのかについて、個別法で収集されたデータに基づき検討し、そこから付加段階の機能および風景構成法の中での役割について検討を加える。

風景構成法の付加段階は、佐々木 (2012) によって技法上の位置づけの重要性、すなわち先行する 10 アイテムの線描と後続する彩色とを繋ぐ重要な役割を担っていると指摘されているものの、付加段階そのものについての研究は那須 (2009) などごく少数に止まり、十分な検討が加えられていないのが現状である。

そこで本研究では、個別法施行による風景構成法の付加段階に描かれた内容について新たにデータを収集し、その傾向をまとめて検討を行って佐々木 (2012) で提示された仮説について検討することを目的として研究を行うこととする。なお、付加段階にはそれまでに描かれたアイテムに補足したり追加で描くということが半数程度生じるため (佐々木, 2012), 単に完成された風景構成法描画からアイテム以外に描かれたものを収集するのではなく、描画プロセスを記録した映像から付加段階のステップで描かれたものを検討の対象とすることとした。

方 法

風景構成法の施行 施行法：個別法、用具：A4 用紙、サインペン、24～25 色のクレヨン

データセット 1：協力者 (描き手) 大学生、大学院生 20 名 (男性 2 名、女性 18 名、平均年齢 20.1 才、SD=2.1 才)、見守り手 調査当時 40 才男性 (=第一著者)、調査時期：2009 年 7 月、2010 年 3 月

データセット 2：協力者 (描き手) 大学生 32 名 (男性 13 名、女性 19 名、平均年齢 20.6 才、SD=1.8 才)、見守り手 調査当時 23 才女性 (=第二著者)、調査時期：2013 年 10 月～12 月

データ収集：個別法で行われた風景構成法の描画プロセスを記録した映像から、付加段階の教示によって描かれたものを収集。

データ分析：個々の描画内容の出現数をカウントし、佐々木 (2012) による分類 (アイテム補足, アイテム追加, アイテム以外) により分析を行う。また、データセット 1, 2 の総計及び各データセット別の分析を行い、傾向を検討する。

結 果

1. 付加物の出現率：データセット 1, 2 の総計 52 枚に対して付加物は 163 個描かれた。描画 1 枚当たりの出現率は 3.13 個である。種類別に見るとアイテム補足 54 個 (1 枚あたり 1.04 個)、アイテム追加 41 個 (同. 79 個)、アイテム以外 68 個 (同 1.31 個) となる

2. アイテム補足, アイテム追加：アイテム補足, 追加の出現率を図 1 に示す。全てのアイテムが 1 回以上は描かれていることがわかる。

図1 アイテム補足, 追加の出現率 (総計)

3. アイテム以外：アイテム以外の出現率を表 1 に示す。雲と太陽という、空に描かれるものが抜きんで多く描かれている。

4. データセット 1, 2 の異同：データセット 1 と 2 の一致点 (1) 大景群 (川-道) の描画率が、75

(2) アイテム補足の描画率が、9 程度 (3) アイテム以外では雲と太陽の描画率が上位 2 つを占めている **データセット 1 と 2 の相違点** (1) 中景群 (家-人)、近景群 (花-石) の描画率がセット 1 の方が 2 よりも高い。(2) アイテム追加はセット 1 の方が、アイテム補足はセット 2 の方が描画率が高い。(3) アイテム以外の種類がセット 1 (6 種類) よりもセット 2 (15 種類) と多くなっている。

考 察

1. 描画 1 枚当たりの付加物の出現率は 3 個強と、佐々木 (2012) で得られた結果と一致している。本法ではこれが平均的な付加物描画数と考えられる。

2. アイテム補足, 追加で全てのアイテムが描かれていることから、それまでに描いた 10 アイテムのうちどのアイテムも付加段階で描かれうることも佐々木 (2012) と一致している。

3. 佐々木 (2012) ではアイテム以外の高頻度アイテムとして太陽、雲、草、橋が挙げられているが、今回は太陽と雲という空に描かれるもののみが高頻度で描かれた。

4. データセット 1 と 2 で一致した点は風景構成法の性質による可能性があり、相違した点は見守り手の影響である可能性がある。

引用文献

那須秀行 (2009). 風景構成法における付加物について：描き手の体験の語りから 佛教大学大学院紀要教育学研究科 篇 37, 109-126

佐々木玲仁 (2012). 風景構成法のしくみ 心理臨床の実践知をこばにする 創元社